

発行にあたって

本資料集は、『法学新報』から中央大学関係記事を抜粋・編集したもので、第十七集以降このシリーズの八冊目にあたります。本資料集では、一九二二（大正一一）年四月から翌二三年三月までに発行された第三二巻四号から第三三巻三号の中から四七件の記事を採録しました。

この時期、本学は大学令による大学として順調に発展していきます。一九二二年九月には前年に認可された本学学位規程にもとづいて稲田周之助が第一号の学位を取得しました。法学博士授与の審査内容を収録資料から知ることができます。

またこのころは、学生の活動が学内外にわたって積極的に行われるようになった時期でもあります。経済学会や剣道部をはじめとする学友会諸会の活動報告や、運動会の記事などから、当時の学生達の澁漉とした姿を思い起こすことができます。これらの学生の活動が、多くの学員や教員の指導・協力に支えられていたことも見逃すことができません。

ドイツ留学中の中村武による「独逸法学界近況」からは、当時のドイツにおける法学教育の様子を具体的に知ることができます。中村は留學生生活のなかから、専任教授養成や図書館の充実などの必要性を訴えています。また、本学の充実・発展に多大の貢献をした弁護士の中村碩夫が亡くなりました。彼は大学認可に際して基金募集の中心的役割を果たした学員の一人ですが、その人となりや資料から伝わってきます。

本資料集が多くの方々にご利用されることを願っています。

二〇一二年一月

中央大学史料委員会専門委員会主査

本 間 修 平